

東北地域女性活躍推進班

みちのくこまち

「放射線技師のワークライフバランスについて本気で考える part2」

～コロナ禍における育児と自己研鑽～

座長集約

脳神経疾患研究所附属総合南東北病院 國分 美加

太田総合病院附属太田西ノ内病院 関根 理沙

2019年4月に働き方改革関連法案が施行され2年が経過しました。労働時間の適切な管理や、時間外労働の制限に伴う業務の整理など、少しずつ変化してきている状況にあります。それに加え、私たち診療放射線技師も業務範囲の拡大に向けて告示研修を受けることとなりました。業務範囲は拡大する一方で、スタッフの負担を軽減させることも併せて、目標としている働き方改革に少し難しさを感じますが、この働き方改革によって医療業界が動き始めていることは事実だと思えます。2019年に宮城で開催された第9回東北放射線医療技術学術大会では、医療現場で問題になりがちな宿当直やオンコール待機について考えてきました。今回は、診療放射線技師のワークライフバランスをコロナ禍である事をふまえ、仕事と育児の両立、自己研鑽を中心に考えていきます。

福島県内の施設にアンケートを実施し、42施設から回答を頂きました。この2年の間に新型コロナウイルス感染症の蔓延が加わったこともあり、内容にはコロナ禍での育児、自己研鑽の項目も設けました。アンケートの結果から、ほとんどの施設で育児支援(育休延長・時短勤務・保育所や託児所の設置・時間外労働の制限・深夜業の制限・子供手当・放射線科独自の制度)の制度が設けられていることが分かりました。しかし、育休が十分に取得できなかったなど、活用できていないケースも見られました。また男性の育休が取得出来ている規模の大きな病院がある一方、認められていない施設もありました。COVID-19での休校や濃厚接触者などの対応では、特別休暇や有給休暇で休むことができた施設がほとんどである一方で、休みを与えることができなかった施設もありました。自己研鑽については、約半数が業務内に時間が与えられており、今後業務内に自己研鑽の時間を設けていきたいと答えた施設を含めると90%を超えていました。

施設の現状を、規模の異なる3施設の方からお話いただきました。総合南東北病院の國分から、スタッフ数が多く、夜勤体制、急な病欠や男性の育休などにも対応できています。院内併設の保育施設は産休から預けられないこともあり、男性の育休取得が必要となりました。管理職の立場の須賀川病院の安藤貴正さんからは、子供の急病に対する休暇の対応やオンコール体制への対応など、スタッフに負担となっており、経営者に現状を把握し理解していただくことが必要とのことでした。子育て世代の公立相馬総合病院の高橋麻子さんからは、慢性的なスタッフ不足であることで、十分な育休の取得が難しいことや振替休暇の取得にも工夫が必要であるとのことでした。一方で、院内併設保育所での一時預かりがあることで、不測の事態でも子供を預けることができ、業務に当ることができたとのことでした。

アンケートの結果から問題点を探り、社会保険労務士の佐藤富蔵先生にご意見をいただきました。やはり、質問や相談で多く寄せられた内容は、オンコール体制や休暇、賃金に対することでした。オンコールは労働基準法で決められておらず、明確な基準がないそうです。そのため、経営者との話し合いが必要となるようです。また育休制度について来年改正される法律も含めてご説明いただきました。育休を円滑に進めるために、育休を取る本人の意向を定期的な面談等で聞き取りをしながら、職場の対応について関係者スタッフと調整していくといだろうというアドバイスが印象的でした。

アンケートの結果と施設の現状からも、自己研鑽は、コロナ禍以前に比べ、更に個人の意欲に左右されるように思われます。Web開催が増えたことで、広い分野の知識を習得するチャンスが増えました。参加にかかる費用や拘束時間が減ったことから参加しやすくなり、今後も継続していただきたい開催手法だと思います。

働き方改革をふまえた業務への対応、スタッフの増員や時間外の勤務体制など、施設によって大きく異なり、経営者の考えに左右されていると感じました。労基法上直接の規定がないオンコール体制では、長時間の拘束や翌日も通常勤務となっている施設が多く、スタッフに大きな負担となっており、何とか打開したい問題です。施設における現状や問題は様々であり、すぐに解決できるものではありませんが、今回の内容が少しでも診療放射線技師のワークライフバランスの向上にお役に立てればと思います。

時間の都合上、佐藤先生に配布資料を準備していただきました。大会HPの「みちのくこまち」より「佐藤富蔵先生のQ&A事前配布資料のダウンロードはこちらから」から閲覧可能です。今回の内容の詳細や他の質問について閲覧いただけますのでぜひご覧ください。